# 取扱説明書

PHONAK
life is on

デジタル式補聴器 **ナイーダ S CRT**

## Naida S CRT IX, IXP, IXSP
## Naida S CRT V, VP, VSP
## Naida S CRT III, IIIP, IIISP

耳かけ型補聴器 **ナイーダ S**

## Naida S IX UP/SP
## Naida S V UP/SP
## Naida S III UP/SP
## Naida S I UP/SP

# はじめに

このたびはフォナック社の補聴器をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。

# 安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる方や他の方への危害･財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを下記のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次のように区分し、説明しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | この表示がある項目は、「死亡または重症などを負う可能性が想定される」内容です。 |
| ⚠ 注意 | この表示がある項目は、「損害を負う可能性、または物的損傷のみが発生する可能性が想定される」内容です。 |

■お守りいただく内容を次のように表示し、説明しています。

| | |
|---|---|
| ⃠ 禁止 | この表示がある項目はしてはいけない「禁止」の内容です。 |

# ご使用にあたって

## ⃠ 禁止

- 音量を大きくしすぎないでください。
- 騒がしいところでは音量を小さめにするか、長時間使用しないようにしてください。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないようにしてください。
- 補聴器は医療機器ですので、分解や改造はしないでください。
- レントゲン撮影、CTスキャンなどの画像診断機器は補聴器に悪影響を及ぼします。これらの機器を用いた撮影を受ける前には補聴器を外し、撮影室の外に置くことをお勧めします。
  またMRIスキャンは強い磁力を用いますので、MRI室に入る前には必ずお外しください。
- 過度の湿気や高温な場所は避けてください。特に夏場は、窓や車のフロントガラスの近くには置かないようにしてください。
- 電池は火中に投げ入れないでください。

ナイーダ S

- 補聴器の内部に水が入ると故障する恐れがありますので、水にぬらさないでください。( 例:お風呂に入るとき)

ナイーダ S CRT

- 補聴器の内部に水が入ると故障する恐れがありますので、強い水流を当てたり、水中に沈めたりしないでください。

⚠ 警告

- ペットのそばや子どもの手の届くところに保管しないでください。万が一、誤って電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師にご相談ください。

## ⚠ 注意

- 指向性マイクロホンが作動している場合は、主に背後から来る音を抑えます。そのため、装用者の背後に近づく車の音や背後で鳴るクラクション（警告音）が聞こえにくいことがあります。
- 補聴器を使用しない場合は電池を取り出してください。そして湿気を取り除くために電池ホルダーを開けたままの状態で乾燥ケースの中に保管してください。
- ご使用になるまでは電池のシールをはがさないでください。ご使用の際にシールをはがし、30秒ほど待ってからご使用ください。
- 使用済みの電池は、各自治体指定の方法により処分してください。
- 不要になった補聴器は、各自治体指定の方法により処分してください。
- 汗、湿気、皮脂、耳垢、整髪料などが補聴器内部に入ると故障する恐れがありますので、ご使用後はお手入れを行ってください。

# ご使用になる前に

- 補聴器は聞こえを元にもどすものではなく、聴力を補う機器です。
- 使い始めは音量を小さめにして、慣れてきたら徐々に音量を調整してお使いください。
- 補聴器はお客さま専用に調整されていますので、他の人に貸したり、他の人の補聴器を装用しないでください。正しく調整されていない補聴器は効果がないばかりか、場合によっては耳を傷めたりする恐れがあります。
- 耳を治療中の方、治療をしたことがある方は主治医にご相談ください。
- 聴力の変化に伴い、補聴器の再調整が必要になる場合がございます。聴力測定を年に一度はお受けになることをお勧めします。

## ⚠ 注意

下記の項目に該当する場合は、補聴器を使用する前に耳鼻咽喉科医にご相談ください。

- 耳の治療中の方、耳の中や耳の後に痛みまたは炎症がある場合
- 過去90日以内に耳だれがあった場合
- 過去90日以内に突発性または進行性の聴力低下があった場合
- 過去90日以内に左右どちらかの耳に聴力低下があった場合
- 急性または慢性のめまいがある方

下記の項目に該当する場合は、補聴器の使用をすぐに中止し、耳鼻咽喉科医または販売店へご相談ください。

- 耳の皮膚が赤くなったり、かゆみ･湿疹などが出た場合
- 耳だれが出てきた場合
- 耳の治療が必要になった場合
- 耳の聞こえが急に悪くなったと思える場合

# もくじ


各部の名称 ..... 10〜12
電池の交換方法 ..... 13〜14
チャイルドロック付電池ホルダー（別売） ..... 15〜16
補聴器の使い方
　電源の入れ方／切り方 ..... 17
　装用の前に／補聴器を耳に装用する方法／耳から外す方法 ..... 18〜23
　音量調節方法 ..... 24〜25
　プログラム切り替え方法 ..... 26
ズームコントロール ..... 27〜29
イージーフォン ..... 30
デュオフォン ..... 31〜32
ワイヤレスアクセサリー（別売） ..... 33〜35
FMシステム（別売） ..... 36〜46
ナイーダS CRT 防塵･防水機能に関する情報と注意 ..... 47
ご使用後のお手入れ方法 ..... 48〜49
補聴器の保管 ..... 50
初めてお使いになる方に ..... 51
故障かと思われたときは ..... 52
仕様･性能 ..... 54〜63
アフターサービス ..... 64
シンボルマークの説明 ..... 65
保証について ..... 66〜67
お客様の補聴器情報 ..... 71

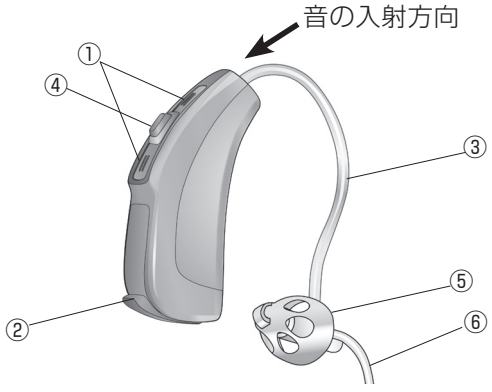
# 各部の名称

## ナイーダ S

①マイクロホン音口（マイクロホンカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③ボリュームコントロール
④電池ホルダー（電源の入/切機能付）
⑤イヤフック（音の出口）
⑥チューブ
⑦イヤモールド（別売）

電池サイズ
ナイーダ S UP:PR44（675）
ナイーダ S SP:PR48（13）

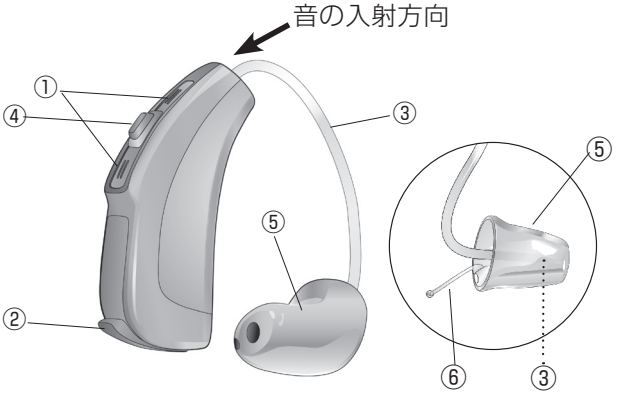
**ナイーダ S CRT：オープン型耳せんの場合**




①マイクロホン音口（マイクカバー付）
（音の入口）
②電池ホルダー（電源の入/切機能付）
③xレシーバ（先端が音の出口）
④プログラムスイッチ
⑤オープン型耳せん
⑥ストッパー（オプション,パワータイプには使用不可）

電池サイズ:PR48（13）

**ナイーダ S CRT：スリムチップ／パワーシェル／SPシェルの場合**

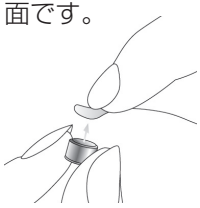



①マイクロホン音口（マイクカバー付）
（音の入口）
②電池ホルダー（電源の入/切機能付）
③xレシーバ（先端が音の出口）
④プログラムスイッチ
⑤スリムチップ／パワーシェル／SPシェル（別売）
⑥取り出し用テグス

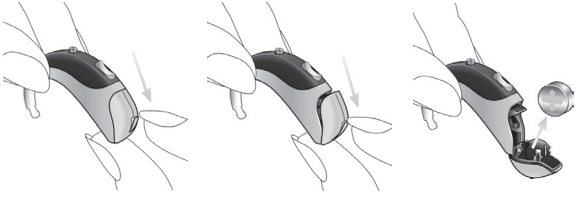
## 電池の交換方法

図はナイーダ S の例です。

1. 新しい電池の保護シールをはがします。シールが貼ってある側が(+)面です。

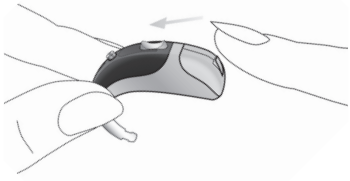


2. 電池ホルダーを開け、使用済みの電池を取り出します。



3. 新しい電池を入れます。電池の(+)面と電池ホルダーの+マークが同じ方向になるようにあわせます。

4. カチッと閉まるまで、電池ホルダーをゆっくり押します。



⚠ 注意

- 電池ホルダーは丁寧に扱い、無理な力を加えないでください。
- 電池ホルダーがうまく閉まらない場合には、電池が正しく収納されているか確認してください。電池がプラスマイナス逆向きに収納されている場合、きちんと閉まりません。

**電池寿命お知らせ音**

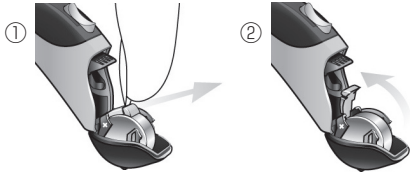
電池がなくなりかけると、お知らせ音（ピー、ピー）が鳴りますので、電池を新しいものに交換してください。（電池が使用できなくなる約30分前に鳴りますが、リモコンを使用している場合は短くなるなど補聴器の使用状態によって異なります。）

# チャイルドロック付電池ホルダー（別売）

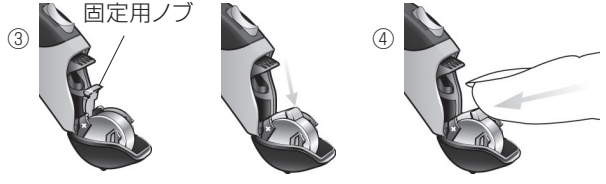
電池の誤飲などによる事故を防ぐため、電池を簡単に取り外しできないようにロックすることができます。
チャイルドロック付電池ホルダーを使用する場合、電池の交換は次の手順で行なってください。

## ナイーダ S の場合

①固定用ノブの先端に図のようにツメをかけて手前にスライドさせます。
②固定用ノブを起こしてから電池を取り出します。

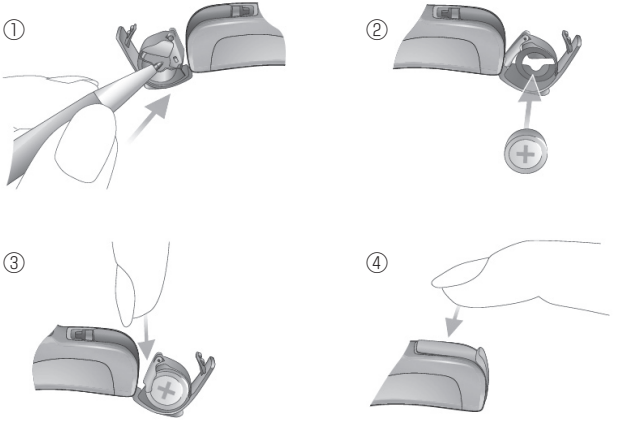



③図のように固定用ノブを起こしてから電池を入れ、固定用ノブで電池を押さえます。
④固定用ノブの先端をカチッと止まるまで奥へスライドさせます。



## ナイーダ S CRT の場合

①電池ホルダーを開き、しっかり電池ホルダーを指でつまみながらペン先などで電池を押し出します。
②電池の向き(+−)に注意して新しい電池をセットします。
③図を参照に、電池固定用のツメを押し込んで電池が外れないよう固定してください。
④電池ホルダーを閉じます。



## 補聴器の使い方

**電源の入れ方**

電池ホルダーを閉める

**電源の切り方**

電池ホルダーを開ける

**ポイント**

電源を入れると、補聴器はあらかじめ調節された音量とプログラムに自動的に設定されます。

⚠ 注意

- 電源を入れてから音がでるまで約4秒かかります。スタートアップの遅延が設定されている場合、電源を入れてから約4秒後に一瞬音が出てから、さらに6秒後または12秒後に動作します。

## 装用の前に

左耳用･右耳用がありますので左右をご確認ください。

### ナイーダ S の場合

青色:左耳用

赤色:右耳用

### ナイーダ S CRT の場合

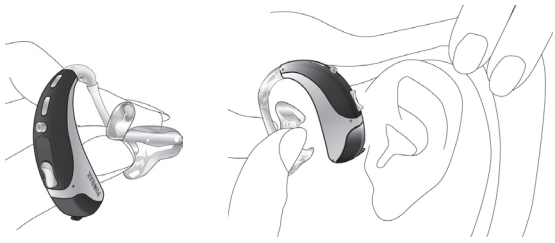
青色:左耳用

赤色:右耳用

## 補聴器を耳に装用する方法

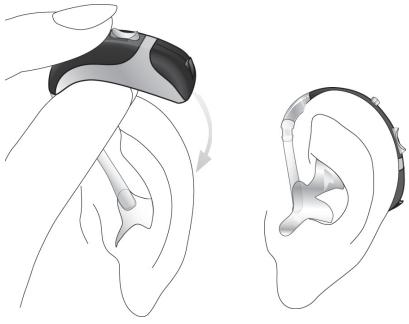
### ナイーダ S の場合

1. 図のようにイヤモールドを持ち、そのまま耳の穴にイヤモールドを近づけます。



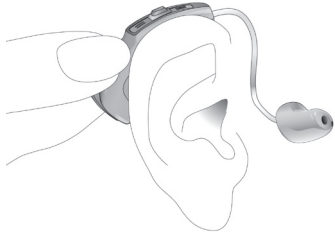
2. 耳穴の後ろの耳介部分を軽く後ろに引きながら、イヤモールドを耳の中にゆっくり入れます。入れにくい場合は、販売店にご相談ください。

3. イヤモールドが完全に収まったら、補聴器本体を耳介の後ろにはめます。

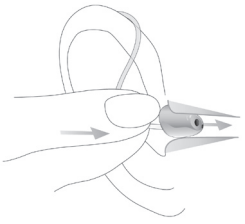


## ナイーダ S CRT の場合

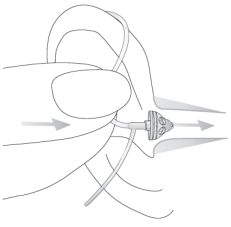
1. 耳の上部に補聴器をかけます。



2. スリムチップまたはシェルをゆっくり押し込みます。耳たぶを後方に少し引っぱりながら入れると、入れやすくなります。

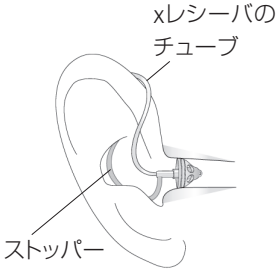


オープン型耳せん、クローズ型耳せん、パワー型耳せんの場合、耳せんが付いているチューブを図のように持ち、外耳道に耳せんをゆっくり押し込みます。



3. 下の図のようにおさまっているか指でなぞってご確認ください。

オープン型耳せん、クローズ型耳せん、パワー型耳せんの場合、チューブのストッパーを図のように耳のくぼみに沿うようにはめます。ストッパーが必要でない場合、取り外すことも可能です。お買い求めの販売店にお尋ねください。



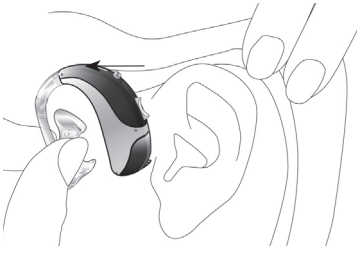

## ⚠ 注意

- ストッパーが長い場合は、少し切り取ることも可能です。その際、固定できないほど短くしないように十分気をつけてください。
- 耳せんは、xレシーバから外れないように作られていますが、万が一外れた耳せんが耳の中に入ってしまった場合には、すみやかに医療機関にご相談ください。

# 補聴器を耳から外す方法

## ナイーダ S の場合

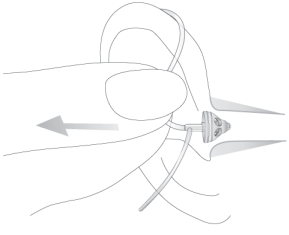
イヤモールドをつかみ、ゆっくり耳から取り出します。



## ナイーダ S CRT の場合

補聴器を耳から外すには、図のようにxレシーバのチューブ部分をつかみゆっくり耳から取り出します。

スリムチップ、パワーシェル、SPシェルの場合は取り出し用テグスを使って取り出します。



# 音量調節方法

## ナイーダ S の場合

**音量を上げる：**
ボリュームコントロールの上部を押します。

**音量を下げる：**
ボリュームコントロールの下部を押します。

音量を変更するとビープ音が1回鳴り、電源を入れた時の音量になると低いビープ音（ポッ）が1回鳴ります。音量が最大または最小に達した場合は、確認音が2回（ピポッ）鳴ります。

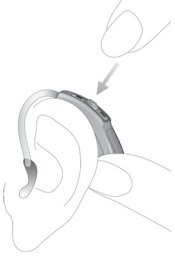
*リモコンで音量調節することも可能です。
（ナイーダ ＳＩ を除く）

## ナイーダ S CRT の場合

同一シリーズの補聴器を両耳装用している場合、プログラムスイッチにてボリューム調節が可能です。
プログラムスイッチで調整する場合、あらかじめ販売店にて設定されている必要があります。

片耳装用の場合は、リモコンでのみボリューム調節が可能です。

**プログラムスイッチによって音量を上げるには：**
右側の補聴器のプログラムスイッチを押します。



**プログラムスイッチによって音量を下げるには：**
左側の補聴器のプログラムスイッチを押します。

# プログラム切り替え方法

あらかじめマニュアルプログラムを設定している場合、手動で切り替えることが可能です。様々な環境プログラム以外に、電話、ミュートなどのプログラムが設定できます。

プログラムスイッチを押すたびにプログラムが切り替わり、確認音が鳴ります。

*リモコンでのプログラム切り替えも可能です。(ナイーダ ＳＩを除く)
*ミュート(無音)を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。

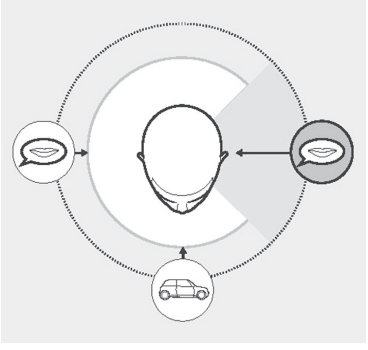
**クイックシンク**(両耳装用の場合)

左右の補聴器が通信を行ない連動する機能です。片方の補聴器のボリュームやプログラムを操作するだけでもう一方の補聴器も同じ動作をします。
※ナイーダ ＳＩを除く

# ズームコントロール

ズームコントロールは、前後左右にある聴きたい音の方向をご自身で選択できる機能です。
例えば、車を運転しているとき、隣の人や後ろの人と会話をするときなど、相手に顔を向けることができないときに便利です。
方向の切り替えはワイヤレスアクセサリー「マイパイロット」（別売）または、補聴器のプログラムボタンにより行います。

※ズームコントロールは、以下の器種を両耳装用の場合のみ使用できます。ナイーダ S IX, ナイーダ S CRT IXの場合は、自動設定も可能です。どの設定になっているかは販売店にお問い合わせ下さい。

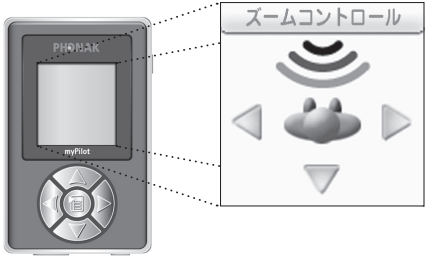


対象器種

| | | |
|---|---|---|
| ナイーダ S IX SP | | ナイーダ S IX UP |
| ナイーダ S V SP | | ナイーダ S V UP |
| ナイーダ S CRT IX | ナイーダ S CRT IX P | ナイーダ S CRT IX SP |
| ナイーダ S CRT V | ナイーダ S CRT V P | ナイーダ S CRT V SP |

## 1. マイパイロットによる方向の切り替え

まずマイパイロット（別売）のカラーディスプレイにズームコントロール画面を表示させます。ズームコントロール画面を表示するには、マイパイロットのメニューボタンを押し、メニュー画面でズームコントロールを選択します。ダイレクトモード画面で使用している場合は、マイパイロットのボタン ◁ ▷ を同時に押して画面を標準モードに戻してからズームコントロール画面を表示します。
詳しくは、マイパイロットの取扱説明書をご参照ください。




ズームコントロール画面が表示されている状態で、マイパイロットの上下左右のボタンを押すことでお好みの方向の音を聞くことができます。

| ボタン | 切替方向 |
|---|---|
| △ | 前方向に切り替えます |
| ◁ | 左方向に切り替えます |
| ▷ | 右方向に切り替えます |
| ▽ | 後方向に切り替えます |

詳しくは、マイパイロットの取扱説明書をご参照ください。

## 2. プログラムスイッチによる方向の切り替え

補聴器のプログラムスイッチでズームコントロールの方向を切り替えるには、あらかじめ補聴器に設定しておく必要があります。ダイレクトタッチ機能を使用すれば、希望する方向の補聴器のプログラムスイッチを押すだけでその方向に切り替えることが可能です。プログラムおよびダイレクトタッチ機能の設定については販売店にご相談ください。

**ダイレクトタッチ機能オンの場合**

販売店にてプログラムに組み込んだズームコントロールのダイレクトタッチ機能をオンにしておくと、そのプログラムに切り替えた際にプログラムスイッチを押した補聴器の方向に切り替わります。ただしこの場合は、左右方向のズームコントロールの使用のみが可能になります。

**ダイレクトタッチ機能オフの場合**

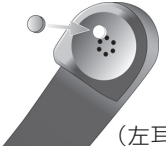
販売店にてあらかじめマニュアルプログラムの何れかにズームコントロールを組み込み、聞きたい方向を設定しておきます。プログラムスイッチを押し、ズームコントロールが組み込まれたプログラムを選択すると、あらかじめ設定された方向に切り替わります。オートマチックプログラムに戻る場合や、他のプログラムに切り替える場合は、適宜プログラムスイッチを押してください。（プログラムの切り替えは、リモコン（別売）のマイパイロットやフォナック パイロットワンでも可能です。）

## イージーフォン（ナイーダ ＳＩ は使用不可）

イージーフォンは、受話器を耳にあてると自動的に電話プログラムを選択する機能です。
切り替わる時、確認音（ピポ）が鳴ります。受話器を耳から離すと、元のプログラムに自動的に戻ります。

### イージーフォン用の磁石を取り付ける方法

受話器をきれいにし、図のような位置に専用の磁石を付属の両面テープで貼ります。


（左耳用）

（右耳用）

### ⚠ 注意

- 磁石で受話器の音が出る部分を覆わないようにしてください。受話器を近づけても切り替わらない場合は、磁石の位置を変更してください。
- 磁石は子どもの手の届かないところに保管してください。もし誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 磁石は、クレジットカードなどの磁気のあるものに影響しますので30cm以上離してください。

# デュオフォン

デュオフォンは、電話プログラムを使用中に、左右の補聴器から同じ音を出す機能です。例えば、右側で電話の音声を補聴器で聞いている場合でも、左側の補聴器からも同じ音声が聞こえます。両耳で聞くことにより片耳の場合よりも電話の音声を聞き取りやすくなります。
イージーフォンと併用してご使用の場合は、受話器を補聴器に近づけると自動で切り替わります。

※以下の器種を両耳装用の場合のみ使用可能

対象器種

| | | |
|---|---|---|
| ナイーダ S IX SP | | ナイーダ S IX UP |
| ナイーダ S CRT IX | ナイーダ S CRT IX P | ナイーダ S CRT IX SP |

## 1. イージーフォンを併用する場合の操作

| 電話する側 | 操作方法 |
|---|---|
| 右側 | 磁石のついた受話器を右側の補聴器に近づけてイージーフォンに切り替えます。<br>イージーフォンが作動している間は、電話の音声が左側の補聴器にも同時に送信されます。 |
| 左側 | 磁石のついた受話器を左側の補聴器に近づけてイージーフォンに切り替えます。<br>イージーフォンが作動している間は、電話の音声が右側の補聴器にも同時に送信されます。 |

## 2. イージーフォンを併用しない場合の操作

販売店にて、あらかじめ補聴器に設定したプログラム内容により操作方法が異なります。以下の設定1～3の電話プログラムの設定が可能ですが、どの設定で使用するかは販売店にご相談ください。

| 設定 | ダイレクトタッチ※ | 電話する側 | 操作方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | オン | 右側 | 右側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。右の電話の音声が同時に左側の補聴器に送信されます。 |
| | | 左側 | 左側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。左の電話の音声が同時に右側の補聴器に送信されます。 |
| 2 | オフ | 右側 | 左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム（右側設定）に切り替えた場合は、右側から入る電話の音声が同時に左側の補聴器に送信されます。 |
| 3 | オフ | 左側 | 左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム（左側設定）に切り替えた場合は、左側から入る電話の音声が同時に右側の補聴器に送信されます。 |

※ダイレクトタッチは、電話を聞き取りたい側のプログラムスイッチを押せば切り替えられる便利な機能です。

# ワイヤレスアクセサリー(別売)

## マイパイロット(ナイーダ S I は使用不可)

マイパイロットは双方向通信機能を持ったリモコンです。
次のような機能があります。

- ボリューム操作
- プログラム切り替え
- 日付、時間表示
- マイパイロットの電池残量表示
- 補聴器の使用状態表示
  (ボリュームの位置、プログラム、電池残量)
- ズームコントロール
  (両耳装用している場合のみ)
- アラーム

詳しくはマイパイロットの取扱説明書をご覧ください。

図のようにマイパイロット
画面を見ながら操作して
ください。

リモコン操作距離
約50cm 以内

## フォナック コムパイロット（ナイーダ S I は使用不可）

フォナック コムパイロットはリモコンとして補聴器のボリュームや調整やプログラム切替ができるだけでなく、補聴器と携帯電話やオーディオ機器、FMシステムなどを接続することができます。

**【ブルートゥース接続】**
携帯音楽プレーヤー、携帯電話、PC、テレビなどの音声をブルートゥース信号を使用して受信し補聴器へ送ることができます。
使用可能時間：約 8 時間

**【オーディオケーブル接続】**
オーディオ機器とフォナック コムパイロットをケーブルで接続することで、オーディオ機器の音楽などを補聴器へ送ることができます。
使用可能時間：約 10 時間

**【FMシステム】**
ユニバーサールタイプのFM受信機（MLxi、別売）を接続することができます。
使用可能時間：約 9 時間

詳しくはフォナック コムパイロットの取扱説明書をご覧ください。

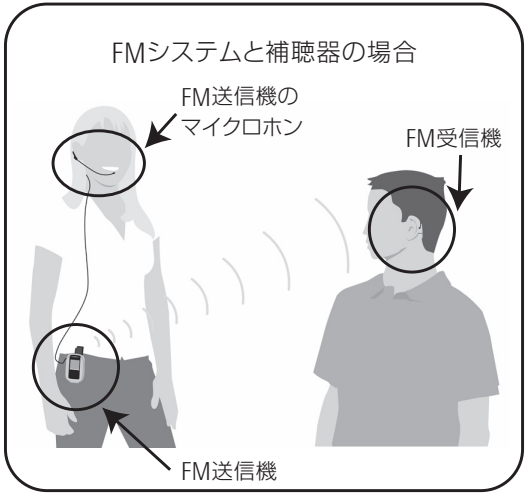
## フォナック パイロットワン（ナイーダ S I は使用不可）

フォナック パイロットワンは、補聴器のボリューム調整やプログラム切替ができるリモコンです。

両耳にフォナック パイロットワンが使える補聴器を装用している場合、両耳同時に動きます。リモコン操作距離は、50cm 以内です。詳しくは、フォナック パイロットワンの取扱説明書をご参照ください。

# FMシステム（別売）

話し手と聞き手の距離が離れた広い場所や周囲の声が行き交う公共の場所など、補聴器を利用しても聞き取りが困難な環境があります。そんな時に役立つのがFM（エフエム）システムです。
遠くにいる話し手の声をキャッチしFM電波（169MHz）を使って送信する事で快適な聞き取りを実現します。FMシステムには送信機と受信機が必要です。FMシステムの詳細についてはFMシステムのカタログをご覧ください。



## FM送信機

| 製品名 | インスパイロ プレミアム<br>inspiro premium | スマート·リンク·プラス<br>SmartLink+ | ズーム·リンク·プラス<br>ZoomLink+ | イージー·リンク·プラス<br>EasyLink+ |
|---|---|---|---|---|
| 写真 | | | | |
| 特徴 | 学校生活用にデザインされた送信機です。言語獲得中の子どもに最適です。日本語表示で操作も簡単です。 | • ビジネスやプライベートで使用できる送信機です。話し手の首にかけて使用します。<br>• スマート·リンク·プラスは、ブルートゥースの機能を使うことによって携帯音楽プレーヤーや携帯電話などの接続が可能です。<br>• スマート·リンク·プラスとズーム·リンク·プラスは、指向性の切り替えができるマイクロホンを搭載しています。 | | |

## FM受信機（ナイーダ S）

| 製品名 | エム·エル·エックス·アイ<br>MLxi | エム·エル·テン·アイ<br>ML10i | エム·エル·イレブン·アイ<br>ML11i | マイ·リンク·プラス<br>MyLink+ |
|---|---|---|---|---|
| 写真 | | | | |
| 特徴 | 別途、オーディオシューが必要です。<br> <br>コムパイロットとの併用も可能です。<br> | ナイーダ S UP専用の補聴器一体型受信機です。オーディオシューは不要です。<br>ナイーダ S と同じ汗や水に強い構造です。<br>JIS防水保護等級3級（JIS C 0920）<br> | ナイーダ S SP専用の補聴器一体型受信機です。オーディオシューは不要です。<br>ナイーダ S と同じ汗や水に強い構造です。<br>JIS防水保護等級3級（JIS C 0920）<br> | Tコイルを利用してFMシステムが使用できる首かけ型受信機です。<br>補聴器にTコイルのプログラムを設定して利用します。 |

※コムパイロットはナイーダ S I には使用できません。

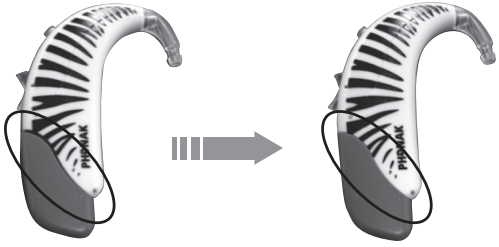
## FM受信機(ナイーダ S CRT)

| 製品名 | エム·エル·エックス·アイ<br>MLxi | エム·エル·フィフティーン·アイ<br>ML15i | マイ·リンク·プラス<br>MyLink+ |
|---|---|---|---|
| 写真 | | | |
| 特徴 | 別途、オーディオシュー(AS15)が必要です。<br> <br>コムパイロットとの併用も可能です。<br> | ナイーダ S CRT に使用できる一体型の受信機です。補聴器と一体型なので紛失の心配がありません。オーディオシューは不要です。<br>ナイーダ S CRT と同じ汗や水に強い構造です。<br>国際保護等級　IP67<br> | Tコイルを利用してFMシステムが使用できる首かけ型受信機です。 |

**FM受信機ML10i使用時の注意点**

FM受信機 ML10iをご使用の際は電池ホルダーが正しく閉じられているかご確認ください。
電池ホルダーを閉じる際に引っ掛かりが2段階ありますが、完全に閉じられるまではFM受信機に電源が供給されず、FM送信機からの音声を受信することができませんのでご注意ください。

下図のように不完全な閉じ方では、FMシステムが動作しない場合があります。



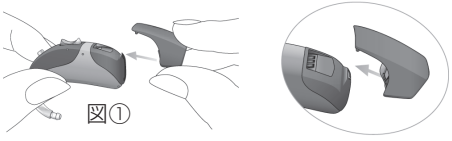
隙間がある不完全な閉じ方　　完全に閉じられている状態

## オーディオシューの取り付け、取り外し（ナイーダ S）

FM受信機の MLxi を使用するためにはオーディオシューが必要です。
ナイーダ S UP には AS10, ナイーダ S SP には AS11 というオーディオシューを使用します。
オーディオシュー（AS10, AS11）を使用する場合、以下の手順で取り付け、取り外しを行います。

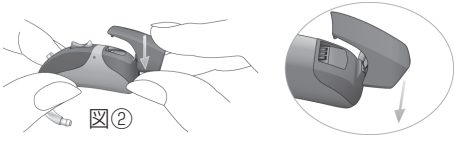
### オーディオシュー（AS10, AS11）とMLxiの取り付け

• オーディオシューを図①のように押し当てます。



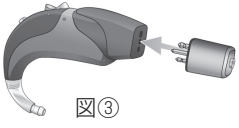
図①

• 電池ホルダーの溝に沿ってスライドさせます。（図②）



図②

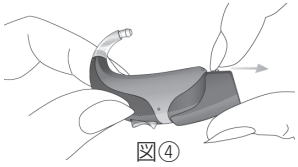
• FM受信機MLxiを図③のようにオーディオシューに接続します。



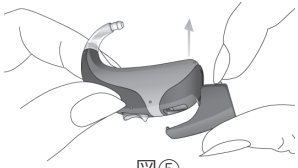
図③

### オーディオシュー（AS10, AS11）の取り外し

- オーディオシューのつまみを押し下げながら（図④）補聴器を図⑤のようにスライドさせます。



図④



図⑤

※オーディオシューを取り付ける前に、電池ホルダーを販売店で交換する必要があります。
※FMシステムを使用しないときに受信機、オーディオシューを取り外す必要はありません。
※オーディオシューおよびFM受信機MLxiは防水設計ではありません。

## オーディオシューの取り付け、取り外し（ナイーダ S CRT）

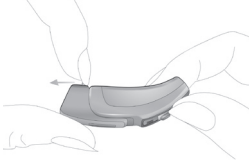
FM受信機の MLxi を使用するためにはオーディオシューが必要です。オーディオシューAS15を使用します。

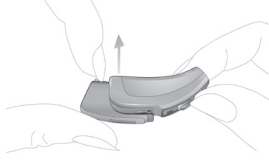
オーディオシュー（AS15）を使用する場合に以下の手順で取り付け、取り外しを行います。

※FMシステムを使用しないときに受信機、オーディオシューを取り外す必要はありません

**オーディオシュー（AS15）の取り付け:**
AS15 を押し込み電池ホルダーの溝に沿ってスライドさせます。

**オーディオシュー（AS15）の取り外し:**
AS15 のつまみを押し下げながら補聴器をスライドさせます。





## FMシステム使用手順

### ナイーダ S + MLxi, ML10i, ML11i

| 切り替え方法 | 手動切り替え | 自動切り替え |
|---|---|---|
| | プログラムスイッチ | イージーFM機能 |
| 手順 | 1. FM用プログラムを補聴器に設定します。<br>2. 補聴器のプログラムスイッチもしくはリモコンでFM用プログラムを選択します。<br> | 1. イージーFMの設定を有効にします。<br>2. 補聴器の電源をオンにして、オートマチックモードにします。<br>3. FM送信機の電源をオンにして、FMのマイクへ向って話し掛けます。<br>4. FM受信機が音声を認識すると自動的にFMプログラム「FM+マイク」に切り替わります。 |

## FMシステム使用手順

### ナイーダ S CRT + MLxi, ML15i

| 切り替え方法 | 手動切り替え | 自動切り替え能 |
|---|---|---|
| | プログラムスイッチ | イージーFM機能 |
| 手順 | 1. FM用プログラムを補聴器に設定します。<br>2. 補聴器のプログラムスイッチもしくはリモコンでFM用プログラムを選択します。<br> <br> | 1. イージーFMの設定を有効にします。<br>2. 補聴器の電源をオンにして、オートマチックモードにします。<br>3. FM送信機から音声を入力します。<br>4. FM受信機が音声を認識すると自動的にFMプログラム「FM+M」に切り替わります。 |

## FMシステム使用手順（MyLink+）

| 切り替え方法 | MyLink+ |
|---|---|
| 手順 | 1. Tコイル用プログラムを補聴器に設定します。<br>2. 補聴器のプログラムスイッチもしくはリモコンでTコイル用プログラムを選択します。<br>3. MyLink+の電源をオンにします。 |

## イージーFM(ナイーダ S I は使用不可)

- イージーFM機能があらかじめ設定されている場合は、次の条件下で自動で「FM」もしくは「FM+マイク」に切り替わります。
  - FM送信機とFM受信機がFMシステム利用圏内(約15m以内)にあること
  - FM送信機とFM受信機のチャンネルが同期されていること
  - 補聴器のプログラムがオートマチックモードであること
  - 送信機のマイクロホンに音声が入力されること
- FM送信機からの音声の入力をストップ(FM送信機の電源オフも含む)したあと、しばらくすると自動でイージーFM専用のプログラムからオートマチックモードに切り替わります。

※MyLink+を受信機として使用している場合は、イージーFMは使用できません。

### ⚠ 注意

- 電子機器の使用が禁止されている場所(例 : 飛行機内など)ではFMシステムは使用しないでください。

# ナイーダS CRT 防塵・防水機能に関する情報と注意

ナイーダ S CRTは防塵・防水機能IP67を備えています。この機能を維持するため、以下の注意点をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

**一般的な注意点**

ヘアスプレーやその他の化粧品を使用する場合、補聴器のききとりに影響が発生する可能性がありますので、耳から取り外した後にヘアスプレー等をご使用ください。

**ナイーダ S CRT 使用上における注意**

- ナイーダ S CRTの防塵・防水機能を使用するためには、耳せんとしてSPシェルが必要です。これ以外の耳せんを使用する場合、防塵・防水機能が保持されませんのでご注意ください。
- ナイーダ S CRT は電池ホルダーが完全に閉じた状態でのみ防塵・防水機能IP67を担保します。髪等が挟まれないように電池ホルダーを完全に閉じてご使用ください。
- 汗や埃が多くついてしまった場合は、きれいな水で洗い流し自然乾燥させてください。(このときドライヤーは使用しないでください)
- 日頃のケアや定期的な点検に関しては、以下をご参照ください。
  - スキューバダイビング、潜水、水上スキーやその他の水上でのアクティビティをされる前には補聴器を取り外してください。
  - 補聴器に水が付着することで電池への空気供給が制限されて一時的に補聴器の動作が止まることがあります。その場合は、柔らかい布もしくはティッシュで水分を拭き取り、濡れていないことを確認してから、電池ホルダーを開けて空気を供給してください。
  - FM受信機ML15iは、この補聴器に接続した状態でのみ防塵・防水機能IP67を担保します。ML15i単体では、防塵・防水機能が保持されませんのでご注意ください。
  - オーディオシューAS15を使用したときは、防塵・防水機能IP67は保持されませんのでご注意ください。
- 防塵・防水機能を維持するために、異常の有無にかかわらず1年に1度のメーカーによるメンテナンスをおすすめします。

# ご使用後のお手入れ方法

補聴器を長くお使いいただくために、日ごろからのお手入れをお勧めします。

1. 補聴器本体から電池を取り出します。

2. ティッシュペーパーや柔らかい布で、補聴器本体と電池についた汗や汚れを拭き取ります。

3. 電池ホルダーの中も湿気があるとさびやすいため、綿棒などで水分を拭き取ります。

4. 耳せんやイヤモールドが耳あかなどでつまっている場合は、ブラシなどで取り除きます。

**ナイーダ S のマイクカバーについて**

マイクカバーは、ナイーダ S の高機能マイクを埃や汗から保護するように設計されております。
マイクカバーなしでナイーダ S を使用されることはご遠慮ください。マイクカバーは必要に応じて交換できます。お買い求めの販売店にお尋ねください。

※ナイーダ S CRT のマイクカバー交換は、医療機器修理業許可を有し、且つフォナックの指定を受けたサービスセンターでのみ可能です。

## ⚠ 注意

- 補聴器をお手入れする際に、家庭用洗剤（石鹸、洗剤粉など）は絶対にご使用にならないでください。
- 水滴が残る危険があるため、チューブや耳せんを水で洗ったり、水中に入れたりしないようにしてください。
- 水滴がチューブや耳せんに残っていると、音がでない、または補聴器の電気部分が壊れる恐れがあります。
- チューブと耳せんは3ヶ月に1回のペースで交換してください。また、チューブが硬くなったり、もろくなってきた場合はすぐに交換してください。
- 耳せんは販売店でのみ交換できます。チューブから、または xレシーバの先端から耳せんを外して耳に装用しないでください。耳を傷つける恐れがあります。

# 補聴器の保管

**通常の保管方法：**
電池を補聴器から取り出し、電池ホルダーを開けたまま補聴器を乾燥ケースに入れてください。

**携帯する場合：**
電池ホルダーを開けたまま補聴器を専用ケースに入れてください。
長期間補聴器をご使用にならない場合は電池を取り外しておいてください。

## ⚠ 注意

- 補聴器から必ず電池を取り出してください。
  補聴器から取り出した電池は乾燥ケースに入れないようにしてください。

# 初めてお使いになる方に

**第一段階**
初めは静かな家の中などで使用し、補聴器をつけることに慣れてください。最初は自分の声に違和感がありますが、本などを声に出して読んだりして違和感がなくなるまで練習します。練習は10分ほどから始めて徐々に長くしますが、疲れたらすぐ休んでください。

**第二段階**
静かな部屋で、身近な人と一対一で話す練習をしましょう。

**第三段階**
複数の身近な人と話をする練習をします。どの人が話をしているか聞き分けてみましょう。

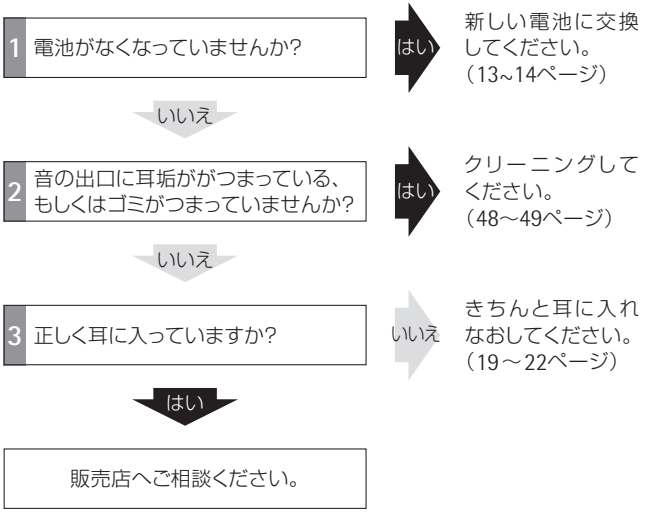
**第四段階**
慣れてきたら、外で聞く練習をします。

## ⚠ 注意

- 補聴器の音が小さかったり、周囲の音が大きく感じたら販売店にご相談ください。補聴器の再調整が必要となります。

# 故障かと思われたときは

補聴器が聞こえづらくなったときは、まず下記のようにお調べください。



# Memo

# 仕様・性能

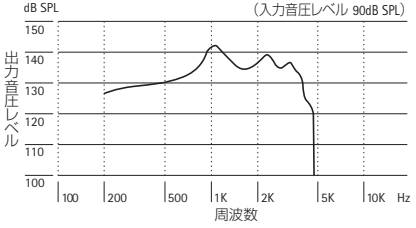
ナイーダ S Ⅸ UP
ナイーダ S Ⅴ UP
ナイーダ S Ⅲ UP
ナイーダ S Ⅰ UP

※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

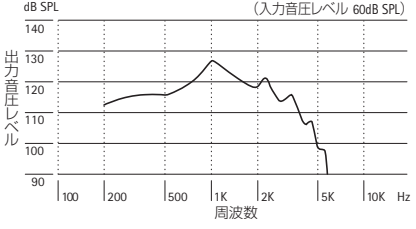
| | |
|---|---|
| **適応聴力範囲** | 高重 |
| **規準周波数** | 1600 Hz |
| **最大音響利得（50dB入力）** | 75 dB ±5 dB |
| **90dB 最大出力音圧レベル** | 135 dB ±5 dB（1600Hz）<br>147 dB SPL 以下（ピーク値） |
| **等価入力雑音レベル** | 30 dB SPL 以下 |
| **全高調波ひずみ** | 500 Hz　6.0% 以下<br>800 Hz　5.0% 以下<br>1600 Hz　5.0% 以下 |
| **電池の電流** | 1.80 mA 以下 |
| **使用電池** | PR44（675） |
| **電池寿命** | 300～470時間 |
| **誘導コイル感度** | 105 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大） |
| **利得調整器** | 可変幅 ±6 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 3 段階<br>可変幅 ±10 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 5 段階<br>可変幅 −20 dBの場合<br>約 2.0 dB ずつ 10 段階 |

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

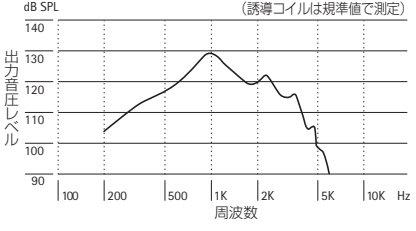
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス




規準周波数レスポンス




誘導コイル入力周波数レスポンス



# 仕様・性能

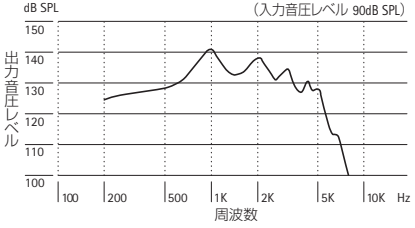
ナイーダ S Ⅸ SP
ナイーダ S Ⅴ SP
ナイーダ S Ⅲ SP
ナイーダ S Ⅰ SP

※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

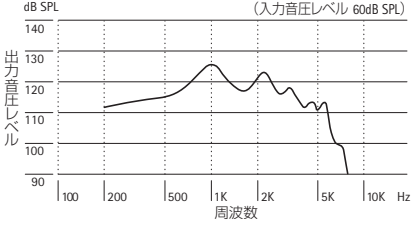
| | |
|---|---|
| **適応聴力範囲** | 高重 |
| **規準周波数** | 1600 Hz |
| **最大音響利得（50dB入力）** | 71 dB ±5 dB |
| **90dB 最大出力音圧レベル** | 132 dB ±5 dB（1600Hz）<br>146 dB SPL 以下（ピーク値） |
| **等価入力雑音レベル** | 30 dB SPL 以下 |
| **全高調波ひずみ** | 500 Hz　6.0% 以下<br>800 Hz　5.0% 以下<br>1600 Hz　5.0% 以下 |
| **電池の電流** | 1.80 mA 以下 |
| **使用電池** | PR48（13） |
| **電池寿命** | 130～200時間 |
| **誘導コイル感度** | 101 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大） |
| **利得調整器** | 可変幅 ±6 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 3 段階<br>可変幅 ±10 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 5 段階<br>可変幅 −20 dBの場合<br>約 2.0 dB ずつ 10 段階 |

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

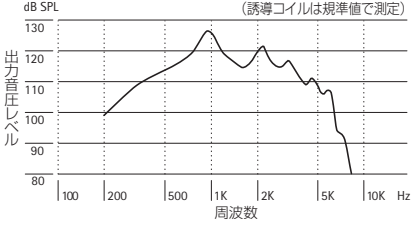
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス




規準周波数レスポンス




誘導コイル入力周波数レスポンス



# 仕様・性能

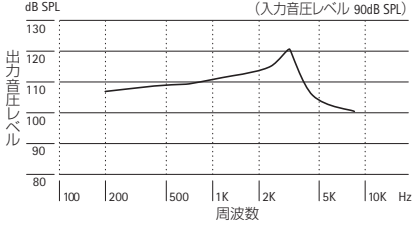
## ナイーダ S CRT Ⅸ
## ナイーダ S CRT Ⅴ
## ナイーダ S CRT Ⅲ

※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

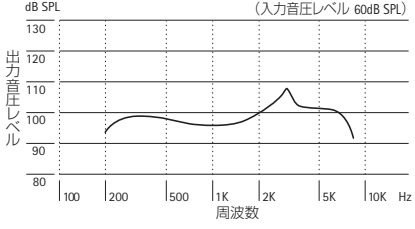
| | |
|---|---|
| **適応聴力範囲** | 軽中 |
| **規準周波数** | 1600 Hz |
| **最大音響利得（50dB入力）** | 44 dB ±5 dB |
| **90dB 最大出力音圧レベル** | 113 dB ±5 dB（1600Hz）<br>125 dB SPL 以下（ピーク値） |
| **等価入力雑音レベル** | 35 dB SPL 以下 |
| **全高調波ひずみ** | 500 Hz　4.0% 以下<br>800 Hz　4.0% 以下<br>1600 Hz　4.0% 以下 |
| **電池の電流** | 1.80 mA 以下 |
| **使用電池** | PR48（13） |
| **電池寿命** | 155～240時間 |
| **誘導コイル感度** | 75 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ1 mA/m ループに対して垂直の時最大） |
| **利得調整器** | 可変幅 ±6 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 3 段階<br>可変幅 ±10 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 5 段階<br>可変幅 −20 dBの場合<br>約 2.0 dB ずつ 10 段階 |

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

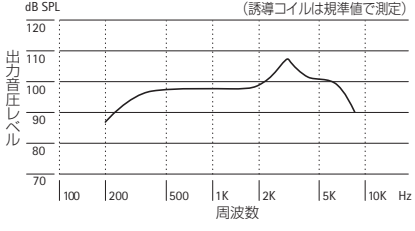
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス




規準周波数レスポンス




誘導コイル入力周波数レスポンス



# 仕様・性能

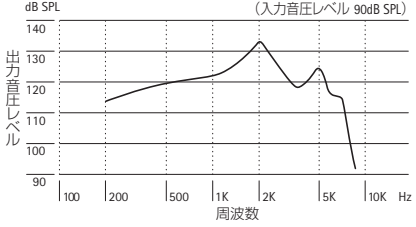
ナイーダ S CRT Ⅸ P
ナイーダ S CRT Ⅴ P
ナイーダ S CRT Ⅲ P

※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

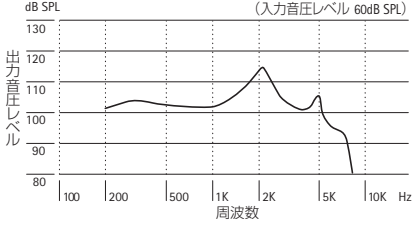
| | |
|---|---|
| **適応聴力範囲** | 軽中高 |
| **規準周波数** | 1600 Hz |
| **最大音響利得（50dB入力）** | 58 dB ±5 dB |
| **90dB 最大出力音圧レベル** | 129 dB ±5 dB（1600Hz）<br>137 dB SPL 以下（ピーク値） |
| **等価入力雑音レベル** | 35 dB SPL 以下 |
| **全高調波ひずみ** | 500 Hz　4.0% 以下<br>800 Hz　4.0% 以下<br>1600 Hz　4.0% 以下 |
| **電池の電流** | 1.80 mA 以下 |
| **使用電池** | PR48（13） |
| **電池寿命** | 140～220時間 |
| **誘導コイル感度** | 87 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ1 mA/m ループに対して垂直の時最大） |
| **利得調整器** | 可変幅 ±6 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 3 段階<br>可変幅 ±10 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 5 段階<br>可変幅 −20 dBの場合<br>約 2.0 dB ずつ 10 段階 |

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

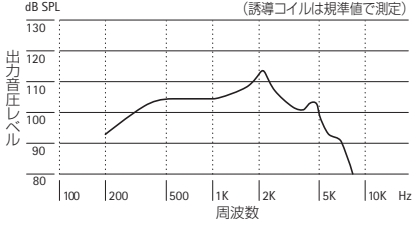
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス




規準周波数レスポンス




誘導コイル入力周波数レスポンス



# 仕様・性能

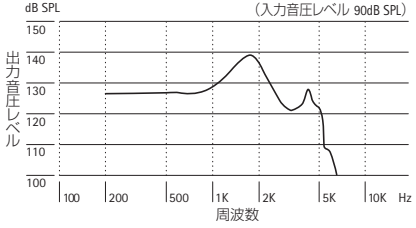
## ナイーダ S CRT Ⅸ SP
## ナイーダ S CRT Ⅴ SP
## ナイーダ S CRT Ⅲ SP

※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

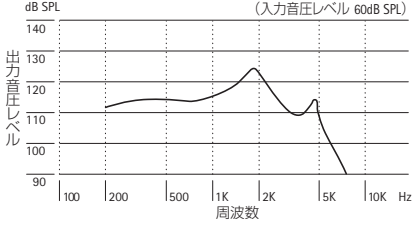
| | |
|---|---|
| **適応聴力範囲** | 中高重 |
| **規準周波数** | 1600 Hz |
| **最大音響利得（50dB入力）** | 70 dB ±5 dB |
| **90dB 最大出力音圧レベル** | 138 dB ±5 dB（1600Hz）<br>144 dB SPL 以下（ピーク値） |
| **等価入力雑音レベル** | 35 dB SPL 以下 |
| **全高調波ひずみ** | 500 Hz　4.0% 以下<br>800 Hz　4.0% 以下<br>1600 Hz　4.0% 以下 |
| **電池の電流** | 1.90 mA 以下 |
| **使用電池** | PR48（13） |
| **電池寿命** | 130～200時間 |
| **誘導コイル感度** | 101 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大） |
| **利得調整器** | 可変幅 ±6 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 3 段階<br>可変幅 ±10 dB の場合<br>約 2.0 dB ずつ 5 段階<br>可変幅 −20 dBの場合<br>約 2.0 dB ずつ 10 段階 |

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度等の環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

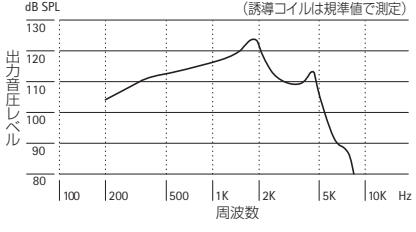
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス




規準周波数レスポンス




誘導コイル入力周波数レスポンス



# アフターサービス

**1. 保証書（別途添付）**

必ず「販売店名」、「お買い上げ日」、などの記載をお確めになり、大切に保管してください。

**2. 修理について**

保証書を一緒に販売店へお持ちください。保証書に記載された内容に応じて修理いたします。

**3. その他**

アフターサービスなどについてのご不明な点は、お求めの販売店までお問い合わせください。

この取扱説明書の内容は2013年3月現在のものです。各製品の仕様は予告なく変更される場合がございます。

※この補聴器は耳を保護する目的で出力 125dB SPL 以下、利得 30dB 以下に設定し出荷いたしております。

# シンボルマークの説明

| | |
|---|---|
| CE 0459 | この記号は、アクセサリー類を含む製品が医療機器指示文 93/42/EEC とR&TTE 指示文199/5/EC のラジオと通信機器·送信機の基準を満たしていることを示しています。CE 記号に続く番号は、フォナック社に対し指導した公認機関コードを表します。 |
| | この記号は、取扱説明書に載っている製品説明がEN60601-1 のタイプBF に則っていることを表します。 |
| | この記号は、補聴器を使われる人が取扱説明書に書いてある内容を読み理解してもらうことが大事であることを示しています。 |
| | この記号は、通常と異なるごみ処理が要求される可能性があることを意味します。処分される際はお住まいの自治体が定める方法に従ってください。 |

# 補聴器ご購入のお客様へ

**日本国内における保証期間**

日本国内における本製品の無償保証期間は、Naida S CRT Ⅸ/Naida S Ⅸ はお買い上げ日より3年間、その他の補聴器はお買い上げ日より2年間です。無償修理の際、保証書が必要になりますが、製品に同梱されている保証書に「販売店名」、「お買い上げ日」の記載があることを確認の上、大切に保管してください。

**日本国外における保証期間（国際保証）**

日本以外の国における本製品の無償保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証対象は、シェル、アクセサリーパーツ、電池、耳せん、外部レシーバを除く補聴器本体となります。国際保証書に「販売店名」、「お買い上げ日」の記載があることを確認の上、大切に保管してください。

当規定は上記の修理保証規定により交換･修理をお約束するものであり、法律上のお客様の権益を制限するものではありません。

**保証適用除外**

お客様または第三者の誤った使用･過失･改造による故障および損傷に対しての修理に関しては、保証期間内であっても保証適用外となります。修理は、フォナックが指定するサービスセンターでのみ行ってください。

また、補聴器の専門家による補聴器の調整やアフターケア等のサービスに対しても、保証対象ではありません。

# Service Policy and Warranty

**Local Warranty**

Please ask the hearing care professional, where you purchased your hearing aid, about the terms of the local warranty.

**International Warranty**

Phonak offers you a one year limited international warranty valid starting from the date of purchase. This limited warranty covers manufacturing and material defects in the hearing aid itself, but not accessories such as batteries, tubes, ear modules, external receivers. The warranty only comes into force if a proof of purchase is shown. The international warranty does not affect any legal rights that you might have under applicable national and legislation governing sale of consumer goods.

**Warranty Limitation**

This warranty does not cover damage from improper handling or care, exposure to chemicals or undue stress. Damage caused by third parties or non-authorized service centers renders the warranty null and void. This warranty does not include any services performed by a hearing care professional in their office.

# Memo

# Memo

# Memo

# お客様の補聴器情報

（販売店で記入してもらいます）

**購　入　日：**

**電池の種類：**

**補聴器のプログラム設定表**

| プログラム | 設定内容 | 確認音 |
|---|---|---|
| 自動プログラム | サウンドフローによる<br>自動切り換え | 短いメロディー |
| プログラム 1 | | “ピ”（・） |
| プログラム 2 | | “ピピ”（・・） |
| プログラム 3 | | “ピピピ”（・・・） |
| プログラム 4 | | “ピポ”（・・） |
| プログラム 5 | | “ピポポ”（・・・） |
| ミュート | | 確認音なし |

※ 確認音は消すことも可能です。

※※ ナイーダ S Ⅸ / ナイーダ S CRT Ⅸはプログラム 5 まで設定可能
ナイーダ S Ⅴ / ナイーダ S CRT Ⅴはプログラム 4 まで設定可能
ナイーダ S Ⅲ / ナイーダ S CRT Ⅲはプログラム 3 まで設定可能
ナイーダ S Ⅰは自動プログラムがなく、プログラム 4 まで設定可能

販売店名

製造販売業
フォナック・ジャパン株式会社
〒141-0031
東京都品川区西五反田5-2-4 レキシントン・プラザ西五反田
TEL 0120-06-4079（お客様相談窓口）
FAX 0120-23-4080
www.phonak.jp

ナイーダ S
認証番号 223AABZX00097000
ナイーダ S CRT
許可番号 13B2X10021 認証番号 224AABZX00041000

029-1071-17/201303/v5
Printed in Japan ©Phonak AG All rights reserved